

『最後のオオカミ』を読んで

弘前市立豊田小学校

阿保 空斗

ぼくがこの本を読んだきっかけは、動物が好きなので、表紙の絵のオオカミのすがたと題名にひかれたからです。

この話は、あるおじいさんが自分のルーツをさがすことから始まります。父方の祖先が分からず、インターネットを通じてさがしあて、自分の祖先にあたるロビーのゆい言葉を読むことができました。そこで、ロビーと最後のオオカミのそうぜつな人生を知りました。

ロビーは小さいころに両親を亡くし、おじに引き取られました。が、つらい少年時代をすごしました。十二才の時、たえきれずにとび出して一人で生きることになりました。つらい毎日でしたが、両親代わりのやさしいふうふに出会い、今までとはくらべものにならないほど幸せになりました。しかし、そんなくらしは三年で終わってしまいました。スコットランド軍とイギリス軍の戦争が始まり、ロビーは、母親が止めるのも聞かず、父親といっしょに戦争に行くことにしたからです。戦場で父親が目の前で殺されてしまい、ロビーは戦場か

らに母親のいる家にもどりました。しかし、村はイギリス兵にやられた後で、母親も亡くなっていました。ロビーはまた一人ぼっちになってしまいました。

それから、イギリス兵からにげてくらす毎日でしたが、ある時、気がつくといギリス兵におわれていました。じゅう声^{じゅうこゑ}がして、もうだめだと思いましたが、うたれたのはスコットランド最後のオオカミでした。ロビーは、自分の身代わりになつてくれたと思いました。だから、近くで一匹のオオカミの赤ちゃん^{きょうごう}と出会ったときは、自分と同じ境遇のひとりぼっちだと感じ、自分がオオカミに助けられたから、今度は自分が助ける番だと思いました。そして、そのオオカミにチャーリーと名づけいっしょにくらすことにしました。

ロビーはチャーリーをとてかわいがり、なかよく、力を合わせながらくらしいてきました。チャーリーが心のささえとなり、つらいことも乗りこえることができました。

その後、たくさんの出会いや別れ、つらいことがありまし

たが、チャーリーがいたからがんばりました。大人になったチャーリーが野生にもどりがつているように見えたロビーはさみしかつたけれど野生にもどしてあげました。チャーリーもロビーの愛情を感じていたので、その後、家族ができて幸せにくらしているすがたを見せに、子どもを四匹も連れて会いに来たのだと思いました。

ぼくは、この話を読んで、戦争のつらさと仲間の大切さを知りました。特に、自分にとって大切な仲間がいると、つらいことがあっても、それをがまんしたり立ち向かったりして、乗りこえることができるのだと感じました。だから、仲間を大切にすることを忘れずに、これから生きていこうと強く思いました。